

THE MUSIC OF YAMATO 1977

Introduction

本書は、1974年10月から1975年3月まで放送された『宇宙戦艦ヤマト』第1作の音楽について研究したものである。すでに、同じテーマで「劇伴倶楽部 Vol.14 THE MUSIC OF YAMATO 1974」を2017年冬に発行しているが、同書に盛り込めなかったテーマを取り上げた。いわば続編、もしくは、増補編のような本である。メインとなるのは、1977年に公開された劇場版『宇宙戦艦ヤマト』と1977年発売のドラマ編LP、および「交響組曲 宇宙戦艦ヤマト」の話。そして、1977年12月に放送されたニッポン放送のラジオドラマ『宇宙戦艦ヤマト』の話だ。「THE MUSIC OF YAMATO 1974」と合わせて読んでいただければありがたい。

しかし、上記の話題だけではボリューム的に1冊にするには足りないなので、筆者の個人的なアニメブーム草創期の思い出を「続『宇宙戦艦ヤマト』と私」として追加した。

さらに、ラジオドラマ『宇宙戦艦ヤマト』の採録を後半に掲載した。採録は70年代の同人誌にはよく見られたスタイルだが、今はいろいろな事情で、ほとんどなくなってしまった。しかし、いまだにラジオドラマが商品化されていないことから、当時の記録として残しておくことは意義があると考えた。有志のヤマト研究の一助になれば幸いである。

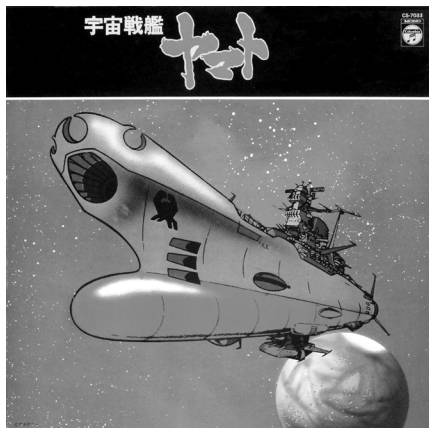
目次

宇宙戦艦ヤマト（ドラマ編）	4
劇場版『宇宙戦艦ヤマト』	8
SPACE CRUISER YAMATO（英語盤）	13
続『宇宙戦艦ヤマト』と私	15
交響組曲 宇宙戦艦ヤマト	22
ラジオドラマ「宇宙戦艦ヤマト」	28
ラジオドラマ「宇宙戦艦ヤマト」採録	31

宇宙戦艦ヤマト（ドラマ編）

[30cmLP] 1977. 07. 25 CS-7033 日本コロムビア

[CD] 1995. 04. 01 : COCC-12477 [復刻] 2014. 08 : PRCL-10077



A面

<オープニング・テーマ> 宇宙戦艦ヤマト
SOS地球!! 甦れ! 宇宙戦艦ヤマト
ヤマト発進!! 29万6千光年の挑戦
驚異の世界!! 光を飛び越えたヤマト
さらば太陽圏!! 銀河より愛を込めて

B面

決断!! ガミラス絶対防衛線突入
決戦!! 七色星団の攻防戦
イスカンダル!! 滅びゆくか愛の星よ
地球よ! ヤマトは帰ってきた
<クロージング・テーマ> 真赤なスカーフ

構成・演出: 西崎義展

脚本: 藤川桂介

音響・編集: 田代敦巳

効果: 柏原 満

演出助手: 棚橋一徳

歌: ささきいさお、ミュージカル・アカデミー

設定デザイン: 松本零士

●大ヒットしたドラマ編レコード

『宇宙戦艦ヤマト』初の30cmLPアルバム。テレビ放送の音声をベースに構成された、いわゆるドラマ編レコードである。ただし、商品名には「ドラマ編」とは付いていない。「オリジナル・サウンドトラック盤」の表紙も帯だけで、「宇宙戦艦ヤマト」というのが正式なアルバムタイトルだ。

2ヶ月あまりで40万枚を突破、最終的に150万枚を売るヒット作になったという。映画の公開日（1977年8月6日）とタイミングが一致したこともヒットを後押しした。

インナーには、ストーリー、キャラクター、各種設定、名場面などがオールカラーで掲載されている。家庭用ビデオデッキが普及していない時代、『ヤマト』本編を再現するこの上ないアイテムだった。

もともとは映画公開を見込んでの企画ではなく、「ヤマトのレコードを出してほしい」というファンの声から生まれた企画だった。ただし、映画の企画もすでに進んでいて、発売を公開時期に合わせたのはねらったことだろう。帯には「テレビ・映画オリジナル・サウンドトラック」と表記されているが、厳密には映画のサントラではない（何より、こちらではスターシャが生きている!）。しかし、A面冒頭の「無限に広がる大宇宙…」のナレーションは映画版の音声なので、テレビと映画のハイブリッドのような内容になっている。

その冒頭ナレーションに代表されるように、本盤には新録部分がある。木村幌による新録ナレーションによって、物語の進行を説明しているのだ。この手法は『海のトリトン』のドラマ編LPにも踏

襲された。

ドラマ部分はモノラルだが、主題歌はステレオ収録。オリジナルの「コーラス＝ミュージカル・アカデミー」版である（発売時、まだロイヤル・ナイツ版は制作されていず）。しかし、1978年に「コーラス＝ロイヤル・ナイツ」版が作られて以降の追加製造分では、収録音源がロイヤル・ナイツ版に差し替えられ、ジャケットの表記も改訂されたようだ。ちなみに、帯に「レコード発売 100 年記念」の丸いロゴマークがあるのが初回盤である。

●ドラマ編レコードの思い出

筆者は6月4日に行きつけのレコード店でこのレコードを予約している。そのとき、すでに5～6人が予約していた。入手したのは7月23日。今でいうフライングゲットしたのだろう。内容がドラマであることは聞いていたが、ぎりぎりまで、「音楽がまるごと聴けるのではないか」と期待していた。針を落とすと完全なドラマ編で、猛烈にびっくりした。

熱心なヤマトファンは、みな再放送などで本編の音声テープに録音し、それをくり返し聴いていた。だから、ドラマ音声なんかいらなかったのだ。

しかも、新録ナレーションのバックには、BGM がいい音で流れているのではない。O-1 ヤマト乗組員の行進」や「F-4 地球を飛び立つヤマト」「F-1C 大河ヤマトのテーマ」「A-3B 美しい大海を渡る（弦のみ）」「A-4 無限に広がる大宇宙」「F-1B 元祖ヤマトのテーマ」などがマスターテープからと思しき良好な音質で収録されているのだ。そこにナレーションやセリフがはいぶさるたびに、「お、音楽だけ聴かせてくれえ～」と身もだえした。

ドラマは名場面集という趣だが、全26話をLP両面45分程度に収めるために、かなり大胆な省略がされている。第4話のワープの描写はなく、デスラーがヒスから聞く報告でワープの成功がわかるのみ。冥王星前線基地との死闘も、反射衛星砲の描写がなく、いきなり基地爆破シーンが登場する。「ガミラス絶対防衛線突入」はタイトルから第11話の内容かと思いきや、実は12話のダイジェスト。一番の驚きは、ガミラス本星の戦いを、七色星団の決戦直後のナレーション「ヤマトは、その余勢をかってガミラス本星を撃破」のひと言だけで済ませていること。むしろ潔い。しかし、最終回のユキ復活のシーンは入れてほしかった。

ただし、全話をテープに録るほどのファンではなかった人には、好評であった。このアルバムで初めて『ヤマト』がどんな作品か認識したという人も多い。また、本編の音声はベースとはいえ、よく聴くと、一部はセリフのみの素材と音楽・効果音とをアルバム用にMIXし直している（テレビ版とはBGMが違ってたりする）。だから、このアルバムでしか聴けないドラマ音声もある。そういう意味では、丁寧に作られたアルバムだった。あらためて聴き直してみると、新たな発見のあるアルバムである。

●TVアニメのレコード化の流れを作った

このアルバムのヒットで日本コロムビアは『海のトリトン』『科学忍者隊ガッチャマン』『バビル2世』『レインボー戦隊ロビン』『タイガーマスク』などのドラマ編LPを続々発売して、出版との相乗効果でアニメブームを盛り上げていく。そのいっぽう、ドラマ編がヒットしてしまったがゆえに、純粋な音楽集の発売が遅くなったという一面もある。功罪相半ばするヒット作だ。

2014年に「YAMATO SOUND ALMANAC」シリーズの全巻購入特典として紙ジャケ復刻された。帯は初回盤が再現されたが、残念ながら主題歌は改訂後のロイヤル・ナイツ版だった。

●ドラマ編LP 使用BGMリスト

Track	M-No.	使用場面
A-1	OP (ステレオ・フルコーラス)	ナレーション「無限に広がる大宇宙…」に続いて
2	P-3 絶体絶命	「味方突撃艦爆発！」～「やつらにはこの艦では勝てない」
	D-1B 悲愴なヤマト	撤退命令を拒否する古代守～「死ぬなよ古代」
	A-4 無限に広がる大宇宙	地球に落ちる遊星爆弾を見る沖田～ナレーション「時に西暦 2199 年…」
3	O-1 ヤマト乗組員の行進	ヤマトに行進する乗組員 (ナレーション+BGM)
	G-2 艦隊集結	浮上するヤマト～超大型ミサイルに照準
	F-3 サスペンス B	超大型ミサイルに主砲発射！ (短く)
	F-4 地球を飛び立つヤマト	地球を飛び立つヤマト (ナレーション+BGM)
4	D-3 夕陽に眠るヤマト	地球引力圏を離脱するヤマト
	N-3 悲しみのスカーフ	遠ざかる地球～心みだされる乗組員たち
	U-3 デスラー登場	ヒスからヤマトのワープ成功の報告を受けるデスラー
	D-3 夕陽に眠るヤマト	爆発を確認するユキ～ガミラス冥王星基地の最期
	U-3 デスラー登場	冥王星基地壊滅の報告をヒスから聞くデスラー
5	TM-2 エンドテーマ BG	太陽圏に別れを告げる沖田と古代～ナレーション
B-1	F-1B 元祖ヤマトのテーマ	ガミラスの罠に突入するヤマト (ナレーション+BGM)
	H-1 探索機発進	巨大なプロミネンスを前にするヤマト
	F-1C 大河ヤマトのテーマ	ガミラスの罠を打ち破って進むヤマト (ナレーション+BGM)
2	G-2 艦隊集結	ガミラス星に集結する宇宙空母
	L-1 (くり返し)	ブラックタイガーチーム対ガミラス戦闘機隊～ドリルミサイル着弾～ドリルミサイル逆転成功～ドメル艦隊全滅～自爆の覚悟を決めるドメル
	A-3B 美しい大海を渡る (弦のみ)	イスカンダルをめざすヤマト～沖田「ありがとう、以上だ」
3	A-4 無限に広がる大宇宙	スターシャからの通信に導かれてイスカンダルに降りるヤマト～進と古代守の再会
	J-2B ショッキングなスカーフ	スターシャとの別れ～古代守「進、許してくれ」
4	F-1B 元祖ヤマトのテーマ	地球への帰路につくヤマト
	N-1 哀しみのヤマト	放射能除去装置を動かそうとするユキ
	J-4 悲しみのテーマ (ギター編)	もの言わぬユキに語りかける古代
	J-2(2) 悲しみ	沖田の最期
	D-3 夕陽に眠るヤマト	ユキの復活～地球に帰還するヤマト (ナレーション+BGM)
5	ED (ステレオ・フルコーラス)	ヤマトの航行音に続いて

宇宙戦艦ヤマト（コンパクト盤）

[17cmLP] 1977. 07. 01 CS-7033 日本コロムビア



A面

1. 宇宙戦艦ヤマト
2. 真赤なスカーフ

歌: ささきいさお、ミュージカル・アカデミー

B面

ドラマ

ガミラス絶対防衛線突入

構成・演出: 西崎義展

脚本: 藤川桂介

音響・編集: 田代敦巳

効果: 柏原 満

演出助手: 棚橋一徳

● サンプラー的なコンパクト盤

LP レコードに先だって発売された 17cm コンパクト盤。本体発売前のサンプラー的な商品だ。

A面が歌、B面がドラマという内容である。

ドラマはLPの抜粋なのだが、タイトルに反して、LPの「ガミラス絶対防衛線突入」のパートはまったく入っていない。「SOS地球!! 甦れ! 宇宙戦艦ヤマト」「ヤマト発進!! 29万6千光年の挑戦」「決戦!! 七色星団の攻防戦」の3つのパートをつなげた内容である。尺は約10分。

しかし、「決戦!! 七色星団の攻防戦」の編集の仕方のために、おそろしいことが起こっている。ドメルの司令円盤が自爆し、爆発音が轟いたところで終わってしまうのだ。LPだと、そのあとに「宇宙最強のドメル艦隊を打ち破ったヤマトは」とナレーションが入るのでヤマトが勝利したことがわかるが、コンパクト盤にはそれが無い。ドメル司令円盤とともにヤマトも宇宙の塵になったのか……と思わせてしまう。ちょっとした問題作である。

● コンパクト盤 使用BGMリスト

使用順	M-No.	使用場面
1	A-4 無限に広がる大宇宙	地球に落ちる遊星爆弾を見る沖田～ナレーション「時に西暦2199年…」
2	G-2 艦隊集結	浮上するヤマト～超大型ミサイルに照準
3	F-3 サスペンス B	超大型ミサイルに主砲発射! (短く)
4	F-4 地球を飛び立つヤマト	地球を飛び立つヤマト (ナレーション+BGM)
5	L-1 (くり返し)	ブラックタイガーチーム対ガミラス戦闘機隊～ドリルミサイル着弾～ドリルミサイル逆転成功～ドメル艦隊全滅～自爆の覚悟を決めるドメル

劇場版『宇宙戦艦ヤマト』

公開：1977 年 8 月 6 日

上映時間：130 分

スタッフ

企画・原案：西崎義展
製作・総指揮：西崎義展
監督：舛田利雄
脚本：藤川桂介、山本暎一
音楽：宮川 泰
美術・設定デザイン：松本零士
アニメーションディレクター：石黒 昇
作画監督：芦田豊雄、白土 武、小泉謙三、
岡迫亘弘、泉口 薫、宇田川一彦
背景美術：棚間八郎
横瀬直士、東条俊寿、水野尾純一
撮影：諫川 弘、吉坂研一、藤田正明、山崎友正
タイトル：多々良正春
音響監督：田代敦巳
効果：柏原 満
編集：鶴沢允寿
録音：アバコ・スタジオ
現像：東洋現像所
助監督：棚橋一徳
制作担当：長嶋正治、野村和史、堤 隆之、広岡 修
配給：西崎義展（株式会社アカデミー）



キャスト

沖田十三：納谷悟朗
古代 進：富山 敬
島 大介：仲村秀生
森 雪：麻上洋子
古代 守：広川太一郎
徳川彦左衛門：永井一郎
真田史郎：青野 武
太田健二郎：安原義人
加藤三郎：神谷 明
佐渡酒造：永井一郎
アナライザー：緒方賢一
地球防衛軍司令：伊武雅之

デスラー：伊武雅之
ヒス：山下啓介
ドメル：小林 修
シュルツ：大林丈史
スターシャ：平井道子
ナレーター：木村 幌

●TVシリーズを再編集した劇場版

もともとは海外セールス用に製作されていた劇場版から発展して、国内上映用に製作された作品である。

海外版の製作はTVシリーズの放送終了直後、1975年5月からスタートしていた。冒頭にパイロットフィルムを流用、新規作画を追加、などの構想はこのときすでに決まっている。

当初は国内での上映の予定はなかった。が、紆余曲折の末、国内向け劇場版が製作され、劇場公開が決定する。

8月6日の公開日には徹夜で並んだファンが劇場の周りに長い列を作った。このようすが新聞や雑誌で取り上げられ、ヤマトブームは一挙に社会現象に。中高生のアニメファンの存在が世の中に認知され、アニメブームを一気に推し進めることになった。

●劇場版『宇宙戦艦ヤマト』公開まで

『ヤマト』の劇場版が製作されているという話は、筆者もヤマトファンクラブの会報を通じて早々に知っていた。石黒昇が新作部分のコンテを描いているという情報もあった。ただしそれは、国内での劇場公開をめざしたものではなく、海外セールス用とのお話だった。また、国内用には七色星団の決戦を中心にまとめた中編フィルムを民音（民主音楽協会）系公開用に作ろうとしているという話も伝わってきていた。

このうち、海外セールス用に製作が進んでいた長編映画は、ハリウッドで英語版台詞の吹きこみが行われて完成。1977年5月に開催されたカンヌ映画祭でセールス試写がされ、イギリス、フランス、イタリア、ドイツ、オランダへの売り込みが成功したという（上映されたかどうかは不明）。この海外向けバージョンはのちに日本で公開される劇場版よりも短い1時間38分のものであった。1977年11月に発売された英語版のドラマ編LPは、この海外向け劇場版の音声をレコードにしたものである。

いっぽう、海外向け劇場版の話を伝え聞いたファンは国内での上映を熱望。それに応える形で海外版よりも長い2時間10分の劇場版が製作され、国内での上映が決まった。ただし、当初は都内の劇場を1館、1週間ほど借り切って、ファンのための特別上映を行うプランが検討されていた。

『月刊OUT』6月号（4月末発売）のヤマト特集には、「一流劇場の一館を借り切った特別上映」「ワンサくんも併映」という情報が掲載されている。そのニュースを読んだ全国のファンは色めきたった。全国で公開してくれという声が上がリ、それに後押しされたように、ロードショー公開（当初は都内4館、公開時には6館に拡大）が決まる。

そのニュースは『OUT』8月号のヤマト特集第2弾でも報じられた。アカデミーはすでに6月から主要ファンクラブの力を借りたヤマトキャンペーンを展開し始めていた。劇場公開の成功とさらなる公開拡大をめざした、リクエスト作戦、ポスター作戦などである。

リクエスト作戦は、ラジオや雑誌で『ヤマト』を取り上げるように電話や手紙で訴えて、メディアでの『ヤマト』の露出を増やそうという作戦。ポスター作戦は、『ヤマト』のポスターを貼ったり、チラシを配布したりして、身近な場面で『ヤマト』をアピールしようという作戦。まさに草の根運動だった。ヤマトブームは自然発生したものではなく、ファンの協力で作り上げられたものだった。

筆者の日記には、6月3日に「ヤングタウンAM」という番組で「宇宙戦艦ヤマト」と「真赤なスカーフ」の2曲が流れたと書いてある。試験勉強中に聴いたのだった。ただし、これがリクエスト作戦の成果だったかどうかはわからない。

こうした宣伝活動の甲斐あってか、ポスター付き前売券は1ヶ月で3万枚という驚異的な売れ行きを示す。人気に目をつけた東映が配給に乗り出し、『ヤマト』の劇場公開は8月13日の札幌を皮切り

に全国各地に広がっていったのである。

●劇場版『宇宙戦艦ヤマト』の音楽

TVシリーズの再編集をベースにした劇場版『宇宙戦艦ヤマト』には、新録音楽はない。主題歌もTVシリーズと同じもの。BGMもTV版のものが使用されている。

ただ、編集の違いにより、多くの場面で、TV版とBGMが変わっている。そのため、印象が変わったシーンも多かった。

劇場版ではイスカンダル到着時にスターシャが死亡している。この部分が新規作画で制作された。のちにTV放映された際に、この場面をTV版25話と差し替えた、「スターシャ生存編」と呼ばれる別バージョンがある。さらに、劇場公開版とTV放映版のそれぞれに、音声をステレオ化したステレオバージョンがある（音楽が一部異なる）。しかし、筆者にとつての劇場版『ヤマト』は1977年の公開当時に劇場で観たバージョンだ。以下で紹介するのも、劇場初回公開版のデータである。

●劇場版『宇宙戦艦ヤマト』使用BGMリスト

使用順	M-No.	使用場面
1	宇宙戦艦ヤマト（TVサイズ、スローVersion）	黒味
2	A-4 無限に広がる大宇宙	地球に落ちる遊星爆弾を見る沖田～ナレーション「時に西暦2199年」
3	L-1 ブラックタイガー	冥王星海戦 地球艦隊対ガミラス艦隊～沖田「やつらにはこの艦では勝てない！」
4	D-1B 悲愴なヤマト	撤退を拒否する古代～古代守艦の最期
5	I-1 イスカンダルの女	火星に倒れているサーシャ～手から落ちる通信カプセル
6	N-1 哀しみのヤマト	地球に帰還する沖田艦～兄の身を案じる古代
7	A-3B 美しい大海を渡る（悲しいBG）	再生される通信カプセル～スターシャのメッセージ
8	H-1 探索機発進	探索機でガミラス偵察機を追う古代と島
9	D-3 夕陽に眠るヤマト	鉄くずの戦艦大和を発見する古代と島
10	D-2 ヤマトのボレロ	イスカンダルへの旅立ちを決意する沖田（ラストのみ）
11	O-1 ヤマト乗組員の行進	ヤマトに向けて行進する乗組員たち～接近する超大型ミサイル
12	F-4 地球を飛び立つヤマト	擬装を解き、姿を現すヤマト～浮上し、超大型ミサイルに主砲発射
13	F-4 地球を飛び立つヤマト	爆炎の中から姿を現すヤマト（ラストのみ）
14	軍艦マーチ	回想 出撃する戦艦大和
15	A-3B 美しい大海を渡る（弦のみ）	回想 爆炎を上げて海に沈む戦艦大和
16	F-1B 元祖ヤマトのテーマ	地球を飛び立つヤマト
17	L-1 ブラックタイガー	ブラックタイガーチーム出撃
18	V ワープ	ワープ中のヤマト
19	B-1 あやしい星を発見	ワープアウトしたヤマト～前方に火星が姿を現す
20	G-2 艦隊集結	火星に着陸しているヤマト～木星へ向かうヤマト
21	H-2 敵宇宙船の出撃	浮遊大陸上空 コスモゼロ対ガミラス偵察機
22	H-1 探索機発進	反射衛星砲の攻撃を受けるヤマト

23	L-1 ブラックタイガー	冥王星の海に沈没するヤマト～反射衛星砲基地に突入する古代たち
24	D-1 悲愴なヤマト（シンセサイザー入り）	冥王星基地壊滅～艦体の修理をするヤマト～回転防禦アステロイドリング
25	TM-2 エンドテーマ BG	司令本部との通信で地球の惨状を知るヤマト乗組員
26	真赤なスカーフ（歌詞 2 番）	太陽圏との別れを惜しむヤマト乗組員たち
27	U-3 デスラー登場	ヤマトにしかけた罠を説明するデスラー～ガス生命体に襲われるヤマト
28	A-3B 美しい大海を渡る（悲しいBG）	倒れる沖田～沖田を診察する佐渡
29	F-4 地球を飛び立つヤマト	アルファ星に呑みこまれるガス生命体～巨大プロミネンス出現～波動砲発射
30	F-4 地球を飛び立つヤマト	波動砲で吹きとばした炎の間を突破するヤマト（ラストのみ）
31	G-2 艦隊集結	ガミラス星に凱旋するドメル司令
32	F-1C 大河ヤマトのテーマ	古代を艦長代理に任命する沖田
33	G-2 艦隊集結	ガミラス星に集結する宇宙空母
34	G-2 艦隊集結	出撃するドメル艦隊～艦長室でもの思う沖田
35	D-3B ヤマト大エンディング	勝利を祈念して水杯を交わすヤマト乗組員たち～ヤマト七色星団へ
36	F-1A 元祖ヤマトのテーマ（エンディング違い）	戦闘態勢に入るヤマト～戦闘艦を進めるドメル艦隊
37	H-1 探索機発進	瞬間物質移送器で転送されるガミラス雷撃機隊～ヤマトに命中するミサイル
38	P-3 絶体絶命	ヤマトの前に現れる重爆撃機～ドリルミサイルが着弾する
39	D-1 悲愴なヤマト（シンセサイザー入り）	反撃することもかなわず戦艦空母の攻撃を受けるヤマト
40	H-1 探索機発進	ヤマトに向かって進撃するドメル司令円盤～自爆の覚悟を決めるドメル
41	A-4 無限に広がる大宇宙	ドメル司令円盤の爆発でボロボロのヤマト～宇宙葬
42	A-3B 美しい大海を渡る（悲しいBG）	スターシャからのメッセージを聴く古代たち
43	B-5 草原	マゼラン雲を目前にするヤマト～記念写真を撮る古代とユキ
44	B-2 ジワジワ・サスペンス	ガミラスとイスカンダルが双子星と知る古代たち
45	U-3 デスラー登場	ガミラス星の魔の海にヤマトを沈めると宣言するデスラー
46	TM-2 エンドテーマ BG	ガミラス星に引き込まれていくヤマト～地下海に着水するヤマト
47	D-1B 悲愴なヤマト	強酸性の海から脱出するヤマト～爆雷攻撃を受けるヤマト
48	F-4 地球を飛び立つヤマト	強酸性の海に潜り、海底火山脈を探すヤマト
49	J-2(2) 悲しみ	地上の惨状を目にして狂ったように笑うデスラー
50	F-1A 元祖ヤマトのテーマ（エンディング違い）	強酸性の海から浮上するヤマト
51	ブリッジ C	デスラーに撃たれるヒス

52	H-2 敵宇宙船の出撃	ヤマトを襲う大型ミサイル群～敵の心臓部に突進するヤマト
53	P-3 絶体絶命	ヤマトの攻撃で崩壊する天井都市と地上～岩盤の下敷きになるデスラー
54	A-2 宇宙の静寂	廃墟となったガミラス星を見る古代
55	N-1 哀しみのヤマト	勝利の虚しさによりきれない古代
56	D-3 夕陽に眠るヤマト	イスカンダルへ向かうヤマト～沖田「ありがとう、以上だ」
57	A-3B 美しい大海を渡る（弦のみ）	スターシャからの通信に導かれてイスカンダルに着着するヤマト
58	A-3 美しい大海を渡る	古代たちの前に現れるホログラフのスターシャ～ヤマトに積み込まれるコスモクリーナーD
59	F-1A 元祖ヤマトのテーマ（エンディング違い）	イスカンダルを出発するヤマト
60	N-1 哀しみのヤマト	銀河系を前にしたヤマト～司令本部との交信が回復する
61	D-3 夕陽に眠るヤマト	放射能除去装置のテストが成功する～ヤマトの前に地球が見えてくる
62	真赤なスカーフ（歌詞1番）	第一艦橋から地球に見入るヤマト乗組員たち
63	J-2(2) 悲しみ	沖田「地球か、何もかもみな懐かしい…」～沖田の死
64	宇宙戦艦ヤマト（TVサイズ、スローVersion）	地球を前に湧き立つ第一艦橋～何か言いかけてやめる佐渡～地球を見詰める古代とユキ

○冒頭の「無限に広がる大宇宙…」(BGMなし)のプロローグ部分はパイロットフィルムを流用したものの。ナレーションはパイロットフィルムで納谷悟朗が読んでいたものをベースに木村幌が吹き込み直している。

○TVシリーズを録音し、何度も聴いてセリフもSEも覚えてしまっていたので、ところどころ新録でセリフが変わっているところに違和感を覚えた。

代表的なのは、

- ・冥王星海戦での古代守のセリフ

「ひとつでも多くの敵をやっつけて死ぬべきじゃありませんか、そうじゃありませんか!？」

- ・イスカンダルを前にした沖田のセリフ「ありがとう、以上だ」が、「本当にご苦労だった」に変わっている？

現行のDVDでは、TV放送用に改訂された「スターシャ生存編」が「ご苦労だった」で、劇場公開版である「スターシャ死亡編」は「ありがとう」になっている。筆者は劇場で「ご苦労だった」を聞いた覚えがあるが記憶違いかもしれない。しかし、TV放送用に新規録音はしていないはずなので、劇場公開版も「ご苦労だった」で一度録音されたのだろう。

○音楽の差し替えて気になった点

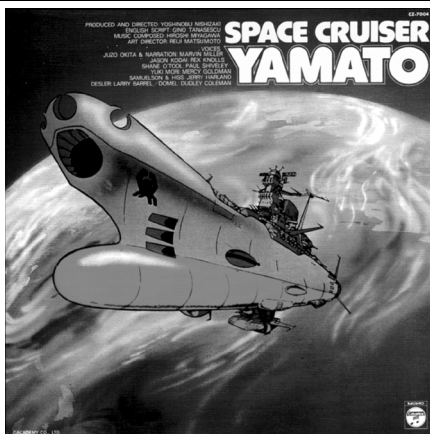
- ・第2話のヤマト起動シーン(第3話と合体している)が「G-2 艦隊集結」から「F-4 地球を飛び立つヤマト」に変わっている。G-2の方が緊迫感があったよかったです。
- ・第2話の戦艦大和出撃の回想シーンで軍艦マーチが復活している。
- ・第24話のガミラス星決戦パートでの「TM-2 悲しみのスカーフ」「F-4 地球を飛び立つヤマト」の使い方が合っていない気がする(緊迫感がない)。

(全体にF-4が多い印象だ)

SPACE CRUISER YAMATO (英語盤)

[30cmLP] 1977. 11. 25 CZ-7004 日本コロムビア

[CD] 2012. 07. 18 : COCX-37383



企画・原案: 西崎義展

英語台本: GINO TANASESCU

音楽: 宮川泰

設定デザイン: 松本零士

吹込キャスト:

沖田十三…MARVIN MILLER

ジェーソン・古代…REX KNOLLS

シェーン・オソール…PAUL SHIVELEY

森雪…MERCY GOLDMAN

サムエルソン…JERRY HARLAND

デスラー…LARRY BARREL

ドメル…DUDLEY COLEMAN

ヒス…JERRY HARLAND

ナレーター…MARVIN MILLER

A面

1. THE EARTH IN CRITICAL DANGER!
(SOS 地球！)
2. A MYSTERIOUS CAPSULE FOUND!
(謎のカプセル)
3. THE CHALLENGE OF JOURNEY OF 296,000
LIGHT YEARS!
(29 万 6 千光年の挑戦！)
4. THE WARP TEST! FASTER THAN THE SPEED
OF LIGHT
(ワープテスト！光を飛び越えたヤマト)
5. GORGON'S BASE ON PLUTO DESTROYED!
(冥王星ゴルゴン基地攻略！)
6. OUT OF THE SOLAR SYSTEM
(さらば太陽圏)

B面

1. A DRILL MISSILE HITS THE YAMATO!
(ドリルミサイル命中！)
2. DOMERU'S SHIP SELF-DESTRUCTED!
(ドメル艦隊の自爆！)
3. IS ISCANDER DOUBLE PLANET?
(二つのイスカンダル星！)
4. INTO THE SULPHURIC ACID SEA! WILL THE
YAMATO MELT?
(硫酸の海へ！溶けるヤマト？)
5. THE YAMATO'S WAVE MOTION GUN! THE
GORGON EMPIRE EXPLODES
(波動砲の威力！ゴルゴン帝国の大爆発)
6. THE YAMATO RETURNS TO MOTHER EARTH!
(地球よ、ヤマトは帰ってきた！)

●海外向け劇場版サントラ

海外向け劇場版の音声をダイジェスト収録した英語版ドラマアルバム。カートンケース入り、ポスターと英和対訳ブックレットがついた、ちょっと豪華な仕様の商品だった。海外版はヤマト人気で慌てて作られたと思っている人もいるかもしれないが、製作は国内公開版よりもこちらの方が先である。

キャラクター名等が一部外国名に置き換えられている。古代は JASON の名になっているが、この JASON とはギリシャ神話に登場するイアソンのこと。イアソンは 50 人の勇士とともにアルゴー船で

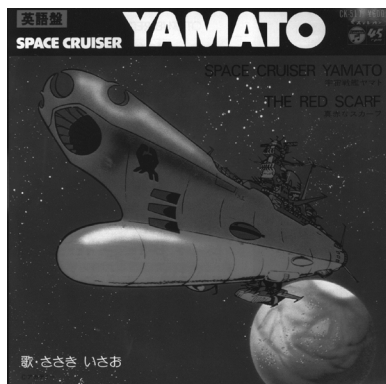
旅立ち、コルキスにある伝説の黄金の羊の毛皮を持ち帰った英雄だ（この話は『アルゴ探検隊の大冒険』という映画になっている）。つまり、イスカンダルへ放射能除去装置を受け取りに行くヤマトの旅を、黄金の羊の毛皮を手に入れに行くアルゴ船の旅に見立てたわけである。

このアルバム、筆者は発売当時は買っていない。単純にお金がなかったのかもしれない。その後も購入する機会がなく（あまり興味がなかった）、「YAMATO SOUND ALMANAC」シリーズでCDになったものを入手して初めて聴いた。外国人の吹替えでも、セリフが英語でも、あの音楽とSEがあれば『ヤマト』に聴こえてしまうのだから音の力はすごい。沖田艦長役とナレーターを同じMARVIN MILLERが担当しているが、まったく異なる声で演じているのはさすがだ。海外向けに多少セリフのニュアンスが変わっている箇所があるが、これは仕方ない。音声だけではあるが、海外向け劇場版がどのようなものだったか知ることができる、貴重な録音である。

●英語版主題歌は無関係

1978年12月25日にささきいさが歌う英語版主題歌のレコード（品番：CK-517）が発売されているが、海外向け劇場版とは無関係に作られたものである。

日本コロムビアの英語版ドラマアルバムは、このあと、『キャンディ・キャンディ』『銀河鉄道999』『超電磁マシーン ボルテスV』『宇宙海賊キャプテンハーロック』『ドラえもん』などが続々と発売される。それほどニーズがあったのか疑問だが……。



立ち読み版はここまでです。

ご覧いただき、ありがとうございました。